

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 3月 6日 更新

事務事業名	地域再生拠点創造事業		<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	3	働く人々が輝き続けるまちづくり		所属部 政策部
	施策	11	農業の振興		所属課 政策課
	施策の柱	32	後継者の育成		所属班 政策班
予算科目	会計一般	款 2	項 1	目 9	事業連番 11560
根拠法令	農地法、都市計画法		成果優先度評価結果 : ③ コスト削減優先度評価結果 : ⑧		
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 22 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	本市において、過疎化及び高齢化を要因として、空き家や耕作放棄地が増加している地域が存在してきている。この状況を放置することにより将来、地域の崩壊が予測される。この要因を解析し地域を再生させる必要がある。 現在、若手農家が耕作放棄地を活用しそばの栽培を実施し、あらゆる販路拡大に繋がるような取組を行っている。そのような活動の中で、農作業経験の無い都市部住民との交流を図る中で、交流会の一環として婦人層の任意団体より交流会参加者へ郷土料理の提供を実施することで幅広い年齢層が交流することでより一層の地域活性化に繋げる取組を行っている。
【業務の流れ】	①空き家所有者賃借契約、 ②上庄区(担い手農家等)との交流会・同地区住民と都市部住民との交流 ③遊休農地に蕎麦等の試験栽培 ⇒ 農業者と企業(加工場や食品会社等)との学習会や販路調査 ⇒ 区へ報告 ④郷土料理を活用した異年齢間のコミュニケーション強化
【主な予算費目】	時間外勤務手当、報償費、旅費、消耗品費、光熱費、修繕費、燃料費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、公課費
【意見や要望】	・地域住民が継続的に交流を図っていくかが課題である。 ・過疎化及び高齢化を分析し、再生させるためには時間を要する。 ・地域住民同士の交流連携・協力の場を提供する必要がある。 ・モデル事業として市全域に広げてほしい。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)	28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
上庄地区若手農家及び女性団体と都市部住民との交流会(そばの作付、農地視察、農業の現状報告、そば打ち体験等=里モンプロジェクト)を実施し地域活性化を図った。また、引き続き耕作放棄地において、そば(春のいぶき)を栽培し、そば粉を活用した『そばかりんとう』の商品化に取り組み、市内物産館や公共施設の売店等で販売を行い、農業副収入の可能性を模索した。	昨年実施した交流会などとおし、参加者及び若手農家及び婦人層の交流をより一層深め、地域活性化に繋げていく。 また、耕作放棄地で栽培したそばを活用した『そばかりんとう』の更なる販路の開拓。関係機関と連携を行い販路開拓を行うことにより農家の所得向上に繋げる。さらに、そばを含めた栽培作物の検討を関係機関と連携して行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 県立大学生と上庄住民の意見交換の回数	⇒ 車両点検に伴う修繕費の減
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
上庄区住民	(単位) ア: 上庄区世帯数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
地域の課題(空き家の増加、耕作放棄地の増加等)について取り組んでいく。	(単位) ア: 意見交換会等参加人数
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠	
人と人との絆が強化されることにより住みよいまちづくりが形成される。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

各指標・総事業費の推移	単位	25年度	26年度	27年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込	
① 活動指標	ア	5	5	10	0	10	10	10	0	
	イ									
② 対象指標	ア	246	251	246	255	250	250	250	0	
	イ									
③ 成果指標	ア	96	24	200	70	230	240	250	0	
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計	一般財源	千円	1,195	1,057	570	510	488	1,300	
		(A)のうち指定経費	千円	1,195	1,057	570	510	488	1,300	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	19	31	29	28	32	50	0
	人件費	正規職員従事人数	人	6	6	5	0	5	5	0
		延べ業務時間	時間	1,460	1,806	1,300	0	1,300	1,300	0
トータルコスト(A)+(B)	(B)人件費計	千円	5,816	7,195	5,179	0	5,179	5,179	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,011	8,252	5,749	510	5,667	6,479	0	

事務事業名	地域再生拠点創造事業	所属部	政策部	所属課	政策課
-------	------------	-----	-----	-----	-----

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 遊休地について、地域の若手農業者と学生が連携し、九州沖縄農業研究機構が開発した「春のいぶき」を栽培し、販路調査等も実施することができた。空き家を活用した交流施設「みんなの家」についても、交流会更には若手農業者と企業との勉強会の実施等、地域の実情にあった利用が増えてきた。
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 上庄地区で地域調査を始め4年が経過し、地域住民が協力と理解をしてきた結果、取組が定着してきている。今後は地道な活動を継続することはもとより、活動を広く知ってもらうためにメディアを活用し他地域への活動を広げるよう発信する。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 現状では年々遊休地や空き家が増加傾向にあるため、このような取組みを一層強化する必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事業遂行のための最小限の予算であるため削減余地はない。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の事務で行っているため、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 全国的な問題でもある「後継者不足の解消」に資する事業であり、新規就農者に対するきっかけづくりをサポートすることにつながるため、公平・公正である。
	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 遊休農地、空き家を活かし、後継者不足の解消を図りながら地域の活性化に資する事業であることから、行政がその役割を担うものである。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

遊休地、空き家の活用が図られ、地域のコミュニティが強化されてきた。  
今後は、農業の販路拡大や加工品の開発等を大学と連携し進めていきたい。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) ・ ・ ・ 複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持																				
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																					